

数学 1 A (佐々) 試験問題 (2008.3.3)

1 . 次の間に答えよ。

- (1) $\frac{dy}{dx} = x(y^2 - 1)$ の一般解を求めなさい。
- (2) $\frac{dy}{dx} = \frac{x + 2y}{x}$ の一般解を求めなさい。
- (3) 線分 $C: y = x (0 \leq x \leq 1)$ に対する線積分 $\int_C xy \, ds$ の値を求めなさい
- (4) 3次元空間 (x, y, z) で定義されたスカラー場: $\phi = x^2 + y^2 + z^2$ とベクトル場: $\mathbf{A} = (x + y - z, -x + y + z, x - y + z)$ に対し、(a) $\text{grad}\phi$ 、(b) $\text{div}\mathbf{A}$ 、(c) $\text{rot}\mathbf{A}$ を求めなさい。

2 . 次の微分方程式の一般解を求めよ。

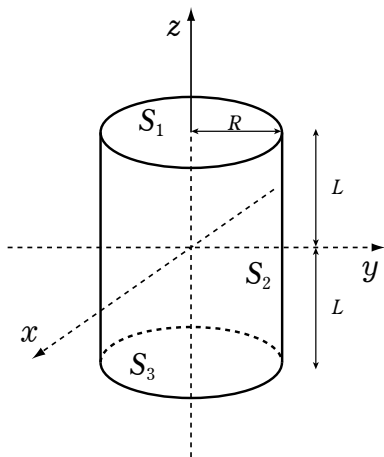
- (1) $\frac{d^2y}{dx^2} + 2\frac{dy}{dx} + y = \sin x$
- (2) $\frac{d}{dx} \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & -3 & 3 \\ 2 & -3 & 2 \\ 2 & -1 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_1 \end{pmatrix}$

3 . 下図のように、半径 R 、高さ $2L$ の円柱があり、上面、側面、下面をそれぞれ S_1, S_2, S_3 とする。また、この S_1, S_2, S_3 上で定義されたベクトル場 \mathbf{A} を

$$\mathbf{A} = \frac{\mathbf{r}}{|\mathbf{r}|^3} \quad (\mathbf{r} = (x, y, z) = (r \cos \varphi, r \sin \varphi, z), \quad |\mathbf{r}| = \sqrt{r^2 + z^2})$$

とする。以下の間に答えよ。

- (1) S_1 上 [$S_1: \mathbf{r}(r, \varphi) = r \cos \varphi \mathbf{i} + r \sin \varphi \mathbf{j} + L\mathbf{k}$] の面積分 $Q_1 = \iint_{S_1} \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S} = \int_0^R r \, dr \int_0^{2\pi} d\varphi \frac{L}{[r^2 + L^2]^{\frac{3}{2}}}$ を求めよ。
- (2) 同様にして S_2 上の面積分 $Q_2 = \iint_{S_2} \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S}$ と S_3 上の面積分 $Q_3 = \iint_{S_3} \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S}$ を求め、 $Q_1 + Q_2 + Q_3 = 4\pi$ であることを示せ。[ヒント: S_2 上で $d\mathbf{S} = (\cos \varphi, \sin \varphi, 0) R \, d\varphi \, dz$]



4 . 積分汎関数 $I[y] = \int_0^1 (y'^2 + y^2) dx$ に対する停留値問題を考える $[0 \leq x \leq 1]$ 。ここで、 y に対する境界条件は $y(0) = 1, y(1) = 0$ とする。以下の間に答えよ。

- (1) この問題に対する Euler 方程式を導き、 y および $I[y]$ の値を求めよ。
- (2) 試行関数: $y(x) = ax^2 - (1+a)x + 1$ [a はパラメータ] を用いて、直接法から a を適当に選び $I[y]$ の停留値の近似値を求めよ。

解答例（略解）...正答であるという保障はありません

1 (1) $y = -\frac{Ce^{x^2} + 1}{Ce^{x^2} - 1}$ (C は積分定数)

(2) $y = Cx^2 - x$ (C は積分定数)

(3) $\frac{\sqrt{2}}{3}$

(4) (a) $2(xi + yj + zk) = (2x, 2y, 2z)$

(b) 3

(c) $-2(i + j + k) = (-2, -2, -2)$

2 (1) 特性方程式の解が -1 (重解) だから、斉次の解は $y = C_1e^{-x} + C_2xe^{-x}$ (C_1, C_2 は積分定数)。

特殊解を未定係数法で決めて、一般解は $y = C_1e^{-x} + C_2xe^{-x} - \frac{1}{2}\cos x$

(2) 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -3 & 3 \\ 2 & -3 & 2 \\ 2 & -1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値は、 $(\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3) = (-2, -1, 1)$ であり、固有値それ

ぞれに対する固有ベクトルは順に ${}^t(1, 0, -1), {}^t(0, 1, -1), {}^t(1, 1, 1)$

よって、 $\begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \end{pmatrix} = C_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} e^{-2x} + C_2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} e^{-x} + C_3 \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} e^x$

(C_i は積分定数)

3 (1) $Q_1 = 2\pi L \int_0^R \frac{r}{(r^2 + L^2)^{\frac{3}{2}}} dr = 2\pi L \left[-\frac{1}{(r^2 + L^2)^{\frac{1}{2}}} \right]_0^R = 2\pi - \frac{2\pi L}{\sqrt{R^2 + L^2}}$

(2) ヒントより、 $Q_2 = \int_0^{2\pi} d\varphi \int_{-L}^L \frac{R^2}{(R^2 + z^2)^{\frac{3}{2}}} dz$ ここで、 $z = R \tan \theta$ と置換すると $\tan \theta = \frac{z}{R}$ を満たす θ を α ($0 \leq \alpha \leq \frac{\pi}{2}$) とし、

$$Q_2 = \dots = 2\pi \int_{-\alpha}^{\alpha} \cos \theta d\theta = \frac{4\pi L}{\sqrt{R^2 + L^2}}$$

また $Q_3 = Q_1$ なので、 $Q_1 + Q_2 + Q_3 = 4\pi$

4 (1) $f = y^2 + y^2$ とすると、この問題の Euler 方程式は

$$\frac{\partial f}{\partial y} - \frac{d}{dx} \left(\frac{\partial f}{\partial y'} \right) = 0 \Leftrightarrow y'' = y$$

となる。この Euler 方程式の一般解は、 $y = C_1e^x + C_2e^{-x}$ であり、境界条件より $y = -\frac{1}{e^2 - 1}e^x + \frac{e^2}{e^2 - 1}e^{-x}$ となる。このとき、 $I[y] = \frac{e^2 + 1}{e^2 - 1}$ ($\sim 1.313035..$)

(2) 試行関数を使うと、 $I(a) = \frac{11a^2 - 5a + 40}{30}$ となる。

$\frac{dI}{da} = 0$ を解いて、 $a = \frac{5}{22}$ 。このとき、 $I = \frac{347}{264} \sim 1.314$